

九州運輸局メールマガジン

平成22年12月2日 第107号（発行日：毎週木曜日）

～九州の明日を拓く運輸と観光～

九州運輸局HPアドレス <http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/>

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

目次

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報（11月25日～12月1日掲載分）
 - 各種情報
 - 分野別情報
 - お知らせ
- 2 現場レポート
- 3 国土交通省からのお知らせ情報

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報（11月25日～12月1日掲載分）

各種情報

《入札・契約情報》

- ・企画競争実施予定情報

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_101130.pdf

分野別情報

《バス・タクシー・トラック》

- ・タクシーの特定地域協議会（長崎運輸支局第4回分）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file18/nag.html

- ・バスの申請公示状況（平成22年12月1日公示分）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/bus/k_101201.pdf

- ・タクシーの申請公示状況（平成22年12月1日公示分）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/taxi/k_101201.pdf

お知らせ

・海上交通低炭素化促進事業に係る補助制度について

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2010-1130-k_kamotsu.htm

2 現場レポート

定例記者会見を開催しました

九州運輸局は、11月26日（金）に平成22年度第4回定例記者会見を開催しました。会見項目は、次のとおりです。

1. 「九州における今後の交通のあり方に関する検討会（第4回）」を開催します～最終とりまとめに向けて論議～（企画観光部 交通企画課）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-1126-kikaku2.pdf>

2. 熊本市において乗換え案内表示の充実を図ります！！

～鉄道・バスの乗継利便性向上策を検討～（企画観光部 交通企画課）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-1126-kikaku1.pdf>

3. 中国上海・北京において、「九州観光説明会・商談会」を開催します（企画観光部 国際観光課）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-1126-kokusai.pdf>

4. 魅力満載！九州の観光圏 冬のイベント

（企画観光部 観光地域振興課）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-1126-kankou1.pdf>

（総務部広報対策官）

国際技術協力の推進

平成22年11月24日、JICA（独立行政法人国際協力機構）とKITA（財団法人北九州国際技術協力協会）が国際技術協力の一環として共同で実施

している技術研修を北九州自動車検査登録事務所で行ないました。

当研修は毎年2回行なわれており、今回は平成22年度の2回目になります。今回の研修には、中国、モンゴル、スリランカ、エジプトの政府環境部門の行政官や大学教授など7名（男性4名、女性3名）が参加し、講義と施設見学を行ないました。

講義では、自動車検査独立行政法人の自動車検査官より「日本における車検制度、車検業務及び自動車排ガス対策」についての説明を行い、その後の施設見学では自動車検査場、傾斜角度室において、実際に車両を検査している様子を見学し、説明を熱心に聞いていました。

研修生の中には、講義の内容を確認するように質問をするなど、また、自国の登録制度と日本の登録制度の違いを質問するなど熱心さが伝わって来ました。

自動車検査独立行政法人九州検査部北九州事務所と北九州自動車検査登録事務所は、国際技術協力の推進のため、JICAやKITAと連携して、今後もこのような機会を積極的に設けて参りたいと思います。

技術研修の様子は、以下のURLからご覧になれます。

http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_107_3.pdf

（福岡運輸支局北九州自動車検査登録事務所）

「船はこうして動く、造る」

～海事教室の実施～

熊本運輸支局では、普段海には馴染みのない小中学生を対象に「海事教室」を実施し、少しでも多くの子供達に海に関する仕事に興味を持ってもらう取り組みを行っています。

今年も、9月3日～11月25日にかけて合計5回行い、県内の小学校6校と中学校1校から合計116人の児童、生徒の参加がありました。

この教室では、海の仕事に興味を持つきっかけにもらう為に、まず、熊本県

玉名郡にある長洲港と長崎県雲仙市にある多比良港を結ぶフェリーに往復路乗船し、乗船体験や船上で働く海の仕事を見学しました。

次に、造船所を訪問し、鉄板から船が完成するまでの工程の説明を聞いたり、実際にその行程を見学しました。

最初のフェリー乗船体験では、初めて船に乗る子供達も多く、意外に早く走る船に驚いたり、カモメが餌を求めてフェリーの後を付いてくる様子を興味深く眺めたり子供達のフェリーへの感心をぐっと引きつけました。

次に、船長さんから、船が動く仕組みから操舵室内にある機械や計器の説明、乗組員の仕事内容について等の様々な興味深い話を伺いました。また、子供達が興味を持ったこと、疑問に思う事などの質問に丁寧に答えてもらい、子供達の中には、「将来船員になる。」と宣言する子も出てきました。

乗船中は、残りの時間でロープワークにも取り組みました。自分の身体に回したロープがどんなに引っ張っても身体が締め付けられないのに、すぐに解ける「舳結び（もやいむすび）」をコレは遊びに使えると是が非でも覚えて帰ろうと必死に習得に励んでいました。子供達をも魅了するさすが、「結びの王様（キング・オブ・ノット）」と言われる由縁ですね。

フェリーを下りて、次は造船所見学です。

まず、造船所の職員の方から、船にまつわる様々な話をして頂きました。

海の知識について、興味深い話が沢山あったのでここでいくつかご紹介したいと思います。

「私たちの身の回りの輸入品はほとんどが船で運ばれてくる。」

島国ですので、よくよく考えれば至極当然ですが、普段の生活では実感しにくいですね。

「日本で1日に消費される石油は大型タンカー2隻分だ。」

日本が省エネ大国だという話ではなく、1隻あたりの積載量が凄いという話です。

「今、世界で船を一番多く造っている国は中国です。」

船の発注から完成までは、船種や大きさなどにもよりますが大体3年程度です。

おもしろい講義の後は、造船所内をバスに乗って巡ります。薄っぺらい鉄板が船の形に曲げられたり切られたりと加工され、塗装されます。造船といっても様々な仕事があり、今回は見る事が出来ませんでした。外側だけでなく、内装の為の大工さんのような職人さんもいらっしゃるそうです。

最後に、できあがり直前の船の見学です。縦に立ると東京タワーと同じ高さになる程の大きな船を船底から、甲板から隅々まで見回しました。普段は海中にあって見る事が出来ない大きな金ぴかのプロペラも見ることができました。

とても貴重な体験をした、116人の子供達。

この中から一人でも海に係わりのある仕事についてもらえたら・・・。

進路に迷うことがあった時に一瞬でもこの海事教室での体験を思い出してもらえたら、とても嬉しい事だと思います。

海事教室の様子は、以下のURLからご覧になれます。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_107_2.pdf

(熊本運輸支局三角庁舎)

外国からの荷物の流れを学ぼう！

下関海事事務所では、次世代人材育成事業の一環として11月17日(水)下関市立川棚小学校5年生の児童等55名を対象に「国際物流の学習会」を実施しました。

地元の小学生に下関港が国内最多の国際旅客航路の国際フェリー基地であることを知ってもらい、アジアからの輸出入貨物の荷役作業や海事施設の見学を通して海の職場の重要性と役割を学び、多くの子供達に次世代の海の仕事を担ってほしいとの目的で催したものです。

海の仕事を見るのは初めての子供達ばかりで、この日は港に着いた船や周辺の倉庫など5カ所を見学しました。

最初に下関港国際ターミナル岸壁において韓国、中国から到着した国際フェリーから次々に荷降しされるコンテナの様子や輸入された野菜類等を燻蒸(くんじょ

う)する施設を見学しました。

次に、コンテナで運ばれた冷凍食品等を保管する冷蔵倉庫へバスで移動し - 20 の庫内を体感しながら、中国から輸入されたカップラーメンの焼き豚の具材や韓国産のパプリカ等の説明を職員から受けた後、生徒から庫内での作業状況や保管日数等の質問があり、中には「給料はいくらぐらいですか？」等答えにくい質問に「プロ野球選手より安いです」とかわすなど終始和やかな雰囲気の中で見学が進められました。

続いて、航海実習の途中で下関に寄港していた航海訓練船「大成丸」に乗船し、船長からの歓迎の挨拶の後、どのように船を動かすか等を学び、また、椰子の実を使った甲板の清掃など船の仕事も体験しました。さらにブリッジでは船長になった気分で、「面舵いっぱい」と楽しそうに舵を動かしていました。

最後の見学地は、下関から関門橋を渡った太刀浦コンテナターミナルです。長さ12メートルの大きなコンテナが運ばれる様子を間近に見て、その迫力に子供達は目を輝かせていました。ターミナルの展望室では、子供達から「コンテナの種類や一番大変なことはなんですか？」等色々な質問が寄せられた結果、時間オーバーで途中で終了することとなりましたが、物流を含め海の仕事に真に関心があるように感じました。

見学終了後、子供達はテレビ(YAB、NHK)のインタビューに「前よりは、海の仕事に興味をもてるようになった。お母さんやお兄さんに伝えたい気持ちです。」「ここに色々な物が輸入されていることがわかった」「船を運転したいと思った。」等と答えていました。

今回の見学会では5時間に及ぶ行程に、NHKの記者が同行したこともあり、参加者は緊張した様子で、帰りのバスではぐったりとしていました。

最後に、海事産業の各担当者のご協力とご厚意により安全に無事に終了することが出来ました。ありがとうございました。

子供達が今回の見学会を通じて、海に関する仕事に興味をもってもらい、将来一人でも多く、海の仕事に就くきっかけとなればと願っています。

見学会の様子は、以下のURLからご覧下さい。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_107_1.pdf

(下関海事事務所)

~ 平成 22 年度鉄道関係年末年始の輸送等に関する安全総点検の標語・ポスターが決定 ~

九州鉄道協会が募集したところ、管内鉄・軌道事業従事者から標語 982 作品、ポスター 13 作品の応募があり、九州運輸局鉄道部及び九州鉄道協会の選考委員による慎重な審査により、入選が決定しました。

標語の部 1 位から 3 位及び佳作、ポスターの部は 1 位を印刷し、期間中 (平成 22 年 12 月 10 日 ~ 平成 23 年 1 月 10 日) に関係事業所の職場・駅等に掲示されることになっています。

各部門の上位入選は次のとおりです。(敬称略)

標語の部

一位 : 「思い込みいつもの作業に落とし穴」
平成筑豊鉄道 ~ 平野翼

二位 : 「他人事思う気持ちにひそむかげ」
西鉄本社 ~ 高崎和浩

二位 : 「総点検あなたが主役で責任者」
松浦鉄道 ~ 沼口隆之

三位 : 「総点検人に頼るな任せるな」
西鉄施設部 ~ 菊池武徳

三位 : 「事故の芽を見つけて摘みとる良い職場」
甘木鉄道 ~ 永淵正己

三位 : 「安全は地道な努力の集大成」
松浦鉄道 ~ 松本弘幸

ポスターの部

一位 : 松浦鉄道 ~ 江口壽昭

二位 : 筑豊電気鉄道 ~ 佐野雅彦

三位：南阿蘇鉄道～手石方真一

「ポスターの部」一位の作品は、以下のURLからご覧になれます。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_107_4.pdf

(鉄道部安全指導課)

「バリアフリー推進セミナー」を開催

九州運輸局は、11月24日別府市に於いて、九州地方整備局との共催による「バリアフリー推進セミナー」を開催しました。

本セミナーは、バリアフリー新法に基づき市町村が作成することができる基本構想の策定等の取り組みを促進すること、また、国民にバリアフリーへの理解を深めてもらうことを目的に毎年開催しています。

今回は、「観光」と「バリアフリー」の観点から日本一の源泉数である別府を舞台に、観光地における交通バリアフリーの新たな展開について講演、パネルディスカッションを行ったもので、約150名の参加者があり、バリアフリーに対する関心の高さが窺えました。

まず、バリアフリー新法の制定に深く関わってこられた近畿大学工学部の三星昭宏教授より「国土交通にかかるバリアフリーをとりまく情勢」と題した基調講演があり、続いて、倉敷市建設局都市計画部交通政策課の藤田智司技師より「交通バリアフリーから住民主導のまちづくりへの展開」と題し、倉敷市における行政主導による倉敷美観地区の道づくり、観光地づくりから、住民が参画しアイデアを出して意思決定するという、住民主体のまちづくりへ展開した取り組みについて、事例を交えて報告がありました。

続くパネルディスカッションでは、基調講演された三星教授がコーディネーターとなり、別府市建設部次長兼都市政策課長の福田茂氏、倉敷市都市計画部交通政策課の藤田智司技師、大分大学工学部の池内秀隆准教授、佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター事務局長の嶋原哲也氏(車いす使用者)、NPO法人自立支援センターおおいたピアカウンセラーの若杉竜也氏(車いす使用者)、大分県障害者体育協会理事の吉松時義氏(車いす使用者)の6人のパネリストから、「観光地における交通バリアフリー」について、障害当事者、専門家それぞれの立場からの議論が行われ、「すべての方におもてなしの心の発露をしたい。」「障害者の方個人個人

の状況を聞き取って一番合う施設を紹介し心地よく過ごしてほしい。」「行政も市民も提言を活かすのに一番大切なのは意識の障壁を無くすこと。」など多くの提言がなされました。

会場には、九州各地より自治体の担当者や交通事業者、福祉団体をはじめ、一般市民の方々も多数参加され、盛況のうちに閉会となりました。

セミナーの様様については、下記URLをご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_107_5.pdf

(交通環境部消費者行政・情報課)

4 国土交通省からのお知らせ情報

広報誌「国土交通」12・1月号発行!

人は、古来から鳥のように自由に空を飛ぶ夢を追い求めてきました。日本では、1910年に東京代々木練兵場(現在の代々木公園)で動力機による公開飛行に成功し、今年はちょうど100年目にあたります。

特集では、「広がる日本の翼」と題し、新管制塔、D滑走路、国際線ターミナルビルの完成により24時間定期便を運航させることができるようになった東京国際空港(羽田空港)を紹介しています。

航空自由化(オープンスカイ)を積極的に進め、アジアのハブ空港として発着枠を急速に拡大する首都圏空港(成田・羽田)から世界へ広がる“新たな空の旅の一步”をご覧ください。

広報誌「国土交通」12・1月号

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_001255.html

【編集部より】

編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内等、地域の情報を募集しています。お気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集部(九州運輸局総務部内)

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html